

令和4年度 第1回 岡山県文化振興審議会

日時：令和4年6月20日（月）14時～15時30分

場所：おかやま旧日銀ホール（ルネスホール ワークルーム）

1 開会 環境文化部長あいさつ

【環境文化部長】

- ・ 県の文化振興の基本計画である、おかやま文化振興ビジョンは10年間の計画期間となっているが、策定から5年を迎え、今年度、中間見直しを行うこととしている。この審議会は、今回を含めて合計3回、御審議をお願いすることとなる。皆様方の忌憚のない御意見をいただきたい。
- ・ 長引くコロナの影響により、県内でも様々な展覧会や演奏会など多くの文化イベントが中止や縮小を余儀なくされるなど、県民の文化に触れる機会が大変減少しているところである。そうした中において、様々な形で私たちの生活を支える文化芸術の大切さが、県民の皆様方にあらためて認識されたのではないかと感じている。
- ・ 我々は、ポストコロナに向けて様々な取組を進める所存だが、今後5年間の本県の文化行政に係る施策の方向性を示す内容となるようにビジョンの見直しを行いたいので、委員の皆様方には活発な御審議を賜りたい。

2 議事 おかやま文化振興ビジョンの中間見直し

【事務局から資料に基づき説明】

【議長】

- ・ この3年間、コロナ禍の大変な時期を迎えたが、大きな流れとして、外国でも日本でも文化が素晴らしく花が咲くのは大禍の直後である。ヨーロッパのルネサンスを見ても、日本の安土桃山文化を見てもそのとおりである。安土桃山などは、たった30年しかないが、いまだに日本の美意識を押さえ続けている。逆境こそ発展があると思っている。今後とも、そのことを忘れないようにしたい。

【委員】

- ・ コロナ禍において、演奏会場でも客席を減らすことなどで、非常に苦境に立たされている音楽家の方々を多く見てきたが、最近、オーケストラの華やかな演奏会なども徐々に再開されるようになってきた。
- ・ 先日のオーケストラのコンサートでマナーの変化に気づいた。これまでは終演の時に、指揮者の方だけがお辞儀をされ、数十人から百人近くいる団員の方々は、姿勢を正した状態でお客さんの方を向いて静止することが正しいマナーだった。コロナ禍を体験され、おそらく、内発的な行動だと思われるが、オーケストラの全員の団員が、きれいにそろったお辞儀を最後にされたことに本当に感動した。お客様が会場に足を運んでくださることのありがたさ、そして、音楽とともに生きていけることのありがたさを、全員が感じられた結果ではないかと思う。
- ・ この経験で得たものを忘れず、さらに発展していくため、気持ちを合わせていくことが大切だと思っている。

【委員】

- ・ 県がいろいろな方向性を挙げてくれていると思う。真庭の作家が日本人では初めてカンヌで上映されたこともあり、その人たちと話をしていると、フランスでは小学校の頃から子どもたちに映画を見せ、その映画について語って教える先生方が待機していて、この映画はどんな色でどんな目的でどんなことがあってこういう映像になっているのか、ということ子どもたちに考えさせながら話すということ聞き、フランスならではの面白い企画、勉強の仕方だと思った。
- ・ 私たちが小学校の頃は、年2回くらい映画館に連れて行ってもらっていた。最近ではテレビやいろいろなものがあり、スマホなどが悪いというわけではないが、ゲームなどに神経、好みに向かっていくような気がしてならない。映画というのは、一つの映画の中で、色彩的なこと、お芝居に対する物語の作り方など、アニメーションでもそうだが、いろいろなことが含まれた中のとても素晴らしい芸術だと私は思う。ドキュメンタリーにしてもそうだ。岡山県では、もう少し子どもたちに見せるチャンスを作ってはどうか。今、岡山は映画の撮影場所となっているが、その映画を観ないこともあると思う。教育関係の方で、子どもたちに年に1回くらいは、暗いところで大きな画面で、大きな音で観ることで得られる深い洞察力で観てもらえるようになると、子どもたちも少しずついろいろな思いが沸き上がってくるのではないかと思っている。久しぶりにサウンドオブミュージックを観て、ウクライナでのこともあり大変心新たに感じたが、昔の映画ですら新しさを感じるのだから、子どもたちにせめてそういうものを、月に1回とは言わないので、1年に2回くらいは1年生から6年生まで観に行けるチャンスがあるとよいと思う。

【委員】

- ・ おかやま文化振興ビジョン冊子 10 ページの「教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実」(重点施策)について、本当に重点施策として重要だとつくづく思っている。私も学校の教育に関わっており、本当に学校差が大きく、その分野に興味のある先生がいたら子どもたちは参加する。先生方の意識の改革という意味でも研修はとても大事だと思っている。毎年早く参加していただける学校がある一方で、全く無関心という学校もあるので、学校差をなくしていただきたい。
- ・ 同 11 ページの「文化団体への活動支援」(重点施策)について、支援対象の見直しの必要はないのか。毎年、同じような額をもらっていると思うが、支援の総額は決まっていると思うので、例えば対象の方を増やして、金額を少なめにすることにもチャレンジしてはどうか。
- ・ 同 21 ページの「子どもみらい塾講師派遣回数」と「優れた芸術を鑑賞した学校数」(成果指標)について、私が勝手に思っていることではあるが、これらも同じ学校がトライしているのではないか。もし、そういう傾向があるなら、教育委員会との連携により、今までトライしたことがない学校にトライしてもらえる方法はないものかと思う。

【委員】

- ・ おかやま文化振興ビジョン冊子 13 ページの「文化に関する情報提供の充実」(重点施策)について、文化施設同士が、その施設で行われる催し以外の催しについても、相互に積極的に広報し合うというようなことが行われているが、さらに活性化する必要があると思っている。非常に貴重な一つ一つの活動を充実させるためがんばってくれている方々がおられるが、できるだけ応援、サポートできるとよいのではないかと思う。

【委員】

- ・ 今回のビジョンの見直しの方向性について、「基本方針や施策の方向性は現行ビジョンをベースとする」ということだが、現行ビジョンは、それぞれ地域に根差した文化を、東京オリンピック 2020 に向けて見直し、発信していこうとしていた。当時、2019 年にはインバウンドが 3,000 万人を超え、オリンピックの年には、4,000 万人、5,000 万人という多くの外国人の方たちが日本に来ることを踏まえ、「県下で文化プログラムを積極的に展開していくこととしています。今回、こうした社会経済情勢の変化等を踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し」(おかやま文化振興ビジョン冊子 1 ページ)、そのオリンピックレガシーとして継承・発展させていく、

というのがこのビジョンにある。それが崩れてしまった。今年、コロナ禍に入って2年半、多少とも落ち着いてはきたものの、大きな環境変化が起きたことにより元には戻らないだろうし、まさに、パラダイムシフトともいえる大きな価値観の転換があったので、残り5年間のビジョンを作ろうというのであれば、小手先だけでは、多分県民の心に響かないと思う。この部分はしっかり捉えてほしい。新しいビジョンを作るぐらいの気構えを私は感じている。新しい時代がきっと来るはずだ。現在のロシアのウクライナ侵攻によって社会のパラダイムが変わっていくことになるので、これから10月、11月、少し汗をかく必要があるのではないかと感じる。

- ・ これまで私はSDGsを取り上げ、持続可能な地球、持続可能な未来を創るためには、その国で持続可能な地域を作らなければならない、と訴えてきた。このビジョンには、好循環とか、伝統とかいう言葉はあるが、持続可能という言葉はない。キーワードは「サステイナブル」ではないかと思う。17の目標には、地球規模の飢饉、エネルギー問題、貧困、ジェンダーといった様々な目標がある中で、文化はなかったが、「17番目のパートナーシップが文化だと思う」という話を聞いたことがある。「いろんなものをつなぐのが文化でしょ」と。コロナが起きて、一層変化が起き、今後、新たな感染症が出てくるかもしれないが、そのためにどうしたらよいかを考える時だ。
- ・ 既に達成しているものはやめて新しい目標を定め、少し変化を加えていくということでは、県民の心に響かないと思うので再考していただきたいと思う。

【委員】

- ・ 体系図の「文化が地域の元気を生み出す岡山」に関する「地域資源としての文化の積極的活用」の中に「繊維産業」「観光産業」が書かれている。確かに繊維は岡山が誇る大事な産業であり、観光もこれから社会が発展するために欠かせない産業だと思うが、なぜ、農業がないのだろうかと思う。岡山は非常に豊かな農業県だと思っているし、伝統文化には農業が非常に深く関わっているのではないかと思う。例えば、神社のお祭りなども、農業と密接した関わりがあると思う。農業は斜陽産業といわれ、支援や助成の対象にはなるだろうが、文化の視点で捉えられることが少ないと思う。いわゆる太平洋ベルトに位置する政令指定都市を抱える岡山が農業に注目するというのも、非常に面白いし、豊かな文化や産業を育むという視点からみれば、農業には伸びしろがあるのではないかと思う。農業や民俗文化という視点があればよいと思う。果物や、おいしいお酒があるし、農業にスポットを当てることが、新しい視点になると思う。
- ・ 資料6ページ「地域資源としての文化の積極的な活用」の現在の指標は観光客数だが、果たして指標としてふさわしいものか。産業の育成などの成果を測る上でふ

さわしい指標なのかもしれない。指標の設定が難しいというのは重々承知しているが、もう少し実効性のある指標があればよいと思う。

- ・ 農業では、アグリツーリズムもなかなか面白い、岡山県がやっていくとすごくおもしろい貴重な方向性が生まれると思う。
- ・ 文化発信と交流、ということで、基本方針の3番目に「文化発信しながら交流を広げる岡山」とある。その中に「文化による連携・交流の促進」というものがある。持続可能とか、いろいろなものをつなぐべきだ、という時に、18 ページ（おかやま文化振興ビジョン冊子）に、県内在住の外国人についての記述があるが、あまり指標には反映されておらず、県内在住の外国人との連携、交流が念頭に置かれていないのではないかと思う。いろんな文化、価値観を持っている人がつながってこそ、新しい価値、文化を生む、内発的発展の基礎になると思う。外国からの観光客も非常に重要だが、足元で生活している人々への視点は、障害を持つ方々はもちろん、LGBTQ、いろんな方が参画し交流できるようなビジョンとして策定され、指標が設定されるとよいと思う。

【委員】

- ・ 岡山県立美術館ができるまでは、岡山県は総合文化センターが天神山にあり、それが図書館と情報センターと展示の3つの役割をしていた。県立美術館ができ、図書館の部門も県立図書館に移り、大きな展示空間に改装された。岡山県立美術館ができるまでは、中四国には数えるほどしか美術館はなかった。総合文化センターでは「汎瀬戸内現代美術展」という、中四国の素晴らしい作家に光を当てて、中四国を、瀬戸内の全体を含んだ展覧会を岡山県で企画をしてやっていた。しかし、中四国各県に美術館ができた途端に、ほとんどそういう交流がなくなった。もっと大きな枠で文化があってもよいと思う。
- ・ 若い人たちが活躍できる場として、「アートの今・岡山」と「天プラセレクション」という2つの大きな柱ができた。天プラセレクションが来年ちょうど10年、100回を迎えるということで、新しい形で組み直そうというふうな動きが出ている。若い人達が、ずいぶん風通しが良くなって、動きが良くなっていると思う。もう一つは、岡山文化芸術アソシエイツの流れで、多くの地方とか人たちと交流の場を設けて、新しい動きが出てきている。いい方向に来ているという実感を持っている。この20年間ほど、現場で見ているが、すごくよくなっていると感じる。
- ・ 障害者について、13 ページ（おかやま文化振興ビジョン冊子）に、「障害がある人の文化活動の推進」とあるが、岡山県の障害者文化芸術交流協会ができ、下石井公園内にきらぼしアートセンターという大きな展示空間ができている。従来はいろいろなところで展示していた岡山の障害者の皆さんにとって自分たちの空間が

できた。障害者だけではなく、健常者の方も展示会ができる場とし、交流の場として機能するような形になっていくとよいのではないかと思う。様々な広報の仕方でも周知していただいて、もっと利用される場所になればよいと思う。

【委員】

- ・ P10（おかやま文化振興ビジョン冊子）の一番下に、「教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実」というのがあるが、これは今、非常に大事なことだと思う。展示場、史跡を回るだけでは足りない。地域社会を、その小学校の先生方が、しっかり捉えられているか、ということだ。
- ・ 今、絶望的なくらい、岡山県だけではなく日本全体で中山間地域の集落、かつてのムラの力が衰えている。過疎化が大きな問題だが、もう一つは、学校の先生方が地域社会に全くなじまないということだ。自動車交通の発達で、どこからでも通勤できるが、自動車交通が発達する前は、自転車で通える範囲の教員が何割かいた。遠くからの先生は、下宿をし、日常的に地域社会に携わることができていた。時代が変わったので、それを戻すわけにはいかない。先生方も満遍なく、いろいろな学校を回ることが方針だということもよくわかる。しかし、地域社会のリーダーがいないと、行事、食べ物、芸能などを今後伝えられない。非常に危機的な状況だ。
- ・ 研修の中へ、地域社会を加えてもらわなければならないと思う。地域社会にどれだけ資産があって、それを地域の人々がどれだけ大事にして、これからどれだけのものを残すか、ということを考え提案して呼びかけるリーダーを作らなければ、日本のムラは壊滅状態になる。ぜひ、充実を実現していただきたいと思う。
- ・ 極端なことを言うと、私は、フリーランスで1年か2年、地域社会、地域文化、地域の人々というところだけをフリーランスとする先生が一人いてもよいと思う。外国人の英語の先生を招くのと同じような状態で。これは県でしかできないことだ。市町村の教育委員会ではとても手が及ばないことなので。英語の先生を招くことと同じように、そうした問題を考え、手掛けることができる先生を探し育てるような機会を作ってもらいたいと思う。これは全国に共通する問題だが、岡山県がその範を示すことになれば、こういう項目テーマだけではなくて、大事なことはないかと思う。本当に、日本の村は誰かが何とかしてきっかけを作らないと、続かないところが多いと思う。例えば、岡山県で田植え歌が全く消えた。これは、田植え機が入った時も、広島県の備後の奥は国の文化財指定があるのでいくつか残ったが、備中地方も同じように、あるいは備前、美作も同じように歌を伴って共同して田植えをしていた。民謡をされる方も、舞台上で歌う歌を中心にされるので、労働歌というものではなくなった。もう今からでは無理だが、そういう光を当てれば輝くものをまだ伝える年寄りがいるので、ムラの文化に対するリーダーをどうするかという

ことをみんなで考えていければと思っている。

- ・ 14 ページ（おかやま文化振興ビジョン冊子）の、ユネスコの無形文化遺産の支援というのぜひお願いしたい。日本の書道文化は、文化庁では具体的に取り上げるところには至っていないと思う。文化庁では、国の重要無形文化財として指定したものをまとめようとしている過程の中で書道や茶道なども入ってきており、ここでも書道だけでなく茶道などの複数の項目を挙げた方がよいのではないかと思う。複数の項目の中で一番現実的に実現しそうなのが神楽だ。早池峰神楽（さわちねかぐら）と島根の佐陀神能（さだじんのう）の2つが既に無形文化財にある。ところが、ユネスコでは、世界中が地域のを個別に出してきても審議はできないということで、日本でも一つにまとめることとされ、既に風流（ふりゅう）というものが一つにまとまる、それから、来訪神（らいほうじん）というのが一つにまとまる。神楽も既に指定されている2つを引き下ろして、日本の神楽ということでもまとめなければいけない。そういう動きは既に出ている。日本の神楽は、宮崎県の教育委員会を中心に、今、九州の神楽としてまとめるという動きが出ている。今度は日本全体へどうまとめるか。文化庁は宮崎県を後押しする形をとっている。備中神楽はここへ入る。ところが、備中神楽は、成羽の神楽だけが突出しているので、備中全体で神楽を無形文化遺産へというのは、県の方でも考えていただかなければいけないし、岡山県神社庁の神楽部が認可制度も持っているので、ぜひ、どこかの神楽を拾った状態ではなくて、備中全体の神楽という大枠での後援をしていただきたい。

【委員】

- ・ おかやま文化振興ビジョン冊子の一番最初に、「若者への手紙」を取り上げていただいていることはありがたい。本当に一つの大きなポイントだと思う。同時に、基本的に考えないといけないのは、これを書いた頃に若者たちが感じていた危機感と今の若者たちが感じている危機感の質的な差についてだ。今の若者たちは、「実際俺、50年後、どこに生きているんだ」いうことを本当に真剣に悩んでいる人もいるし、悩む理由があるという社会情勢の中なので、そういう人たちにとって文化とは一体何なんだろうという問いはますます重みを増している。今回は無理かもしれないが、文化は何なんだろう、というところから構築しなおして、この次には本当に抜本的にすごいものを作ろうよというつもりで、これからも見直してほしい。
- ・ 成果指標は具体的に検討すべきだと思う。そもそも文化活動を指標で評価しているのかということは、私たちは疑問に思っている。日本でも全国的にそういう風潮が出てきていると思う。特に文化系や人文系の評価を、理科系や工学系と同じようにしてもよいのか、ということについては疑問の声が非常に上がっており、具体的にそうでない別の指標を作ろうという動きがある。数値指標で文化を評価してよい

のかということ自体を問いかけていただければと思うが、やはり数値指標でやることになると思うので、それなら指標の中身をどうするか、ということはかなり考えていただかなければならないと思う。指標の考え方は全面的に少し考え直されたら良いのではないかと考えている。

- ・ 重点施策に関する指標で見直すもので、「県の取組が指標の達成に影響していないもの」として「文化関係各種助成金の採択件数」を削除するということだが、むしろ逆に、助成金の手続きはとても面倒で民間が取るのは難しいので、県の文化振興課か、あるいは文化連盟か、うまく手分けしてたくさん助成金を得られるようアシストしていただければと思う。
- ・ 「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」は削除してはいけないのではないか。これは非常に基本的な問題。ただ、これをどうやって計測するのか、というのは非常に難しいと思う。
- ・ 目標設定や評定基準の設定は基本的に重要であり、もし可能であるなら、指標の改訂のため、有識者3人か5人くらい、徹底的に議論するような小委員会を作り、特に若手の皆さんに指標の議論をしていただき、私たちの文化活動がプラスになるような指標を作ってもらうことを考えてはどうか。現在の指標は、普通の指標に比べたら大変よく考えてあるよい指標だと思うが、これで文化が評価できるとはとも思わないので、ぜひお願いしたい。
- ・ 教員については、圧倒的に重要なことだ。ただ、「語らい座」で開かれている教師塾にも、先生は本当に出てこれない。試験、部活、選手権、県大会などがあり、少し無茶苦茶なので、そういうところから直していかなければならないと思うが、非常に問題意識を持った先生方がおられるので、先生方に対する働きかけを強めるのは基本的に大事なことだと思う。
- ・ 文化の活用をしていただくことは結構であり、どんどんやってほしい。ただ、文化を活用するような指標はたくさんあるが、文化を育てクリエイトする方向の指標が少し乏しいということが先ほどの農業の問題として現れている。農業は文化のゆりかごであり、その中から文化がいろいろ出てくる。そういう、文化をクリエイトする仕組みを壊さないというような指標を、ぜひ作ったらよいのではないか。抽象的にしか思い浮かばないので、それ具体化するためには、本当に知恵者を何人か集めて指標再検討小委員会を作ってはどうかと思う。

【議長】

- ・ 各委員からすごく重みのある話をいただいた。岡山の文化をどうしたらよいか、様々な意見があったが、これが岡山だ。岡山の文化は非常に多様性があり、例えば、刀剣一つ作るのでも、松炭や檜の木の炭がどちらも必要だが、そういう岡山が持つ

ているもので天下を制していったのも事実で、岡山をもう一度よく直視し、多様性が一番優れていることに気づいてほしい。

【事務局】

- ・ このビジョンをもっと抜本的に見直すべきではないかというお話があり、我々の方でも議論をいくらか行っている。現行ビジョンでは、オリンピック、パラリンピックに向けて希望と期待を持って文化政策を進めていくことを華々しく書いていたが、もう一つの視点として、おかやま文化振興ビジョン冊子の3ページのとおり、基本条例の第3条に掲げた5つの基本理念に非常に大事なことが書かれており、それを基本的な視点として策定することとされ、それに基づいて骨組みを作っているという2つの面がある。委員から御指摘があったように、文章や施策においてオリンピックのことが散りばめられていたが、文化は期待どおりにはならなかったこともあり、そうした面での全体的な見直しはしないといけないと思っている。
- ・ コロナ禍を踏まえた時代の変化があり、それも踏まえて今回、このビジョンへどのように新しい視点というのを入れていくかは、非常に大きな課題であると思うので、勉強しながら反映させていきたいと思っている。
- ・ 指標について、小委員会を作ってはどうかとの意見をいただいたが、現在の指標で文化を反映できているのかということは我々も課題だと思っていたので、どこまでできるのかということはあるが、勉強しながら精査をしていきたい。

【委員】

- ・ ガラッと変えるくらいの気持ちでと申し上げたが、ここで全部変えるというのは物理的にも大変難しいということはよくわかっている。骨格についてはこれでよいと思うが、大きな目標として新しい社会を作るために岡山の地域の文化を核にしていくということをきちんと入れて変えていけばよいのではないか。
- ・ ただ、成果については、ビジョンに掲げた5年の成果が出てないので、その成果について変えていただくことで、分かりやすく伝わるのではないか。

3 閉会 環境文化部長あいさつ

【環境文化部長】

- ・ 終始熱心な御議論をいただきお礼を申し上げます。様々な角度から御意見を頂戴したが、我々県という行政機関が策定をする計画であるため様々な限界があるが、できる限り、本日の皆様方の御意見を踏まえて次回の審議会に臨みたい。